



第1回理事会報告



秋の宣伝行動に



第1回理事会が10月2日(日)午後1時から水戸市見川市民センターで開かれました。18

地域から29人の常任理事・理事が出席、日本平和委員会の岩月康範事務局次長も参加されました。理事会は、ロシアによるウクライナ侵略への抗議を継続する、秋の宣伝行動に元気に取り組む、オンラインによる日本平和大会に参加する、仲間を増やす取組などが提案されました。

近藤輝男代表理事が開会あいさつ、議長には百里平和委員会の栗又衛さんが選出されました。最初に、篠原事務局長より経過報告、情勢、当面の課題が提案されました。とくに各種の世論調査でも国民の6割以上が反対と意思表示した「国葬」を岸田文雄内閣が強行したことについて、各地域(那珂・おおみや・友部・守谷・石岡・鹿行)から首長申入れ等の報告がありました。おおみや平和の会は、「国葬」問題について市長懇談を申入れ、15分という制限された時間の中で「市庁舎に半旗掲揚。職員に黙とう」することの「中止」を迫りました。このことについては、12月議会でも

9.24改憲阻止いばらき総がかり行動 開催!

安倍政治の継承は許さない。

いばらき総がかり実行委員会は、9月24日(土)水戸駅北口において「国葬」等に反対する緊急集会を開催しました。台風接近にともない時折、小雨が降る中、正午から1時間にわたって「戦争法の廃止を求める茨城県民連絡会」など平和関係6団体、政党関係4団体の代表が次々とマイクを握りました。

集会の開始時には100人程だった参加者は、改めて数えてみると130人もの方々が各団体代表者の訴えに耳を傾けて



ていました。安倍元首相の似顔絵の横に「こんな人の国葬反対」の字を大書したプラカードを掲げた女性もいました。様々な世論調査でも国民の6割が反対している「国葬」を、巨額の税金

元気に取りくも



「追及する。このままにはしない」と発言しました。守谷平和の会は9月18日(日)、21日(水)、24日(土)と街頭宣伝し、手作りのチラシを手渡すなどの活動を報告。18日は雨天中止、24日も降雨と天気恵まれない日もあったが、チラシを見て参加された方もおり、計20人で活動したとのこと。

戦争と平和パネル展について(美和緒川御前山・おおみや・守谷・石岡・鹿行)取組みが報告されました。美和緒川御前山平和の会では、3千枚のチラシを印刷、配布して準備し、地元の中学校、県立高校を訪問したことなどを話されました。また隣接する「なすからすやま」9条の会になって「9条改憲は戦争への道」看板を立てたことも。石岡平和の会からは、八郷の私立中高一貫校「青丘学院つくば中学校・高校」(全寮制)の高校生が修学旅行の事前学習として「パネル」展を見学しに来たことに驚いた、と。

新聞意見広告の取組みや日本平和大会参加費用についての質問もありました。また東海第二原発の杜撰な管理による火災事故からも日本原電には再稼働させる資格はないと厳しい批判が出されました。延べ15人が発言しました。

理事会は「東海第二原発再稼働反対」「ロシアによる4州併合撤回」に関する2つの声明文を採択し、飯田美弥子代表理事による閉会あいさつで終了しました。

「法的根拠のない国葬」中止を

を使って実施することに抗議の意思を表明したいという熱気が感じられました。日本の政治を歪めた反社会的カルト集団の旧統一教会と安倍氏の「ズブズブの関係」にも批判が高まっています。



県平和委員会からは木村泉代表理事が「安倍元首相を讃えることで、安倍政治を進めることが狙いだ。戦争をさせないためにも国葬反対の声を上げよう」と訴えました。

今回の集会は、6月8日に続く2回目の「総がかり」行動でした。今後「改憲、軍拡」などの政治情勢をみながら3回、4回と回を重ねることを確認して終了しました。

「平和をねがう」写真展の開催

【主催】おおみや平和の会、新日本婦人の会大宮支部

引き継ごう 戦争の記憶 平和な未来のために！

今年も昨年同様に、8月4日から17日の期間、常陸大宮市役所1階エントランスホールにて開所時間帯に併せて「平和をねがう写真展」を開催しました。開催に際し、常陸大宮市及び教育委員会の後援を受け、「広報お知らせ版」へのイベント情報掲載がありました。写真展は、昨年に続き「高校生が描いた原爆の絵」、「原爆と人間」、「広島・長崎原爆写真パネル」を展示しました。期間中には、市役所に用事に来た方々が行き帰りに写真に見入っていました。

また今年も、新日本婦人の会が「ピースメッセージカード」コーナーを設置し、呼び掛けて書いてもらいました。



コーナーでは、小中学生から大人達が思い思いのメッセージを書いてくれ、カードをその都度展示して見てもらいました。

写真展へのアンケートは、高齢の方より「写真よりも絵のほうが訴えるものが多い。作者の受け止めたものが現れるからだと思う」、「直立不動の少年の写真を見て涙が止まらなかった。何回か見ているがいつみても涙が出てきます」など。また「ずっと続けてほしい」と中学生が思いを書きました。

また、「核兵器禁止条約」が発効され被爆国の日本政府が条約に署名・批准していないことをどう思うかについてというアンケートでは、約7割の方々が「署名・批准すべき」と回答していました。

写真展は、用事に来て見てくれた人、何度となく来て涙を流した人等、一人でも多くの方に原爆や戦争の悲惨さを知って頂くために継続していく必要があること、そして、平和と命の尊さについて考え、話し合える機会になったと確信しています。 【おおみや平和の会 相沢さん】

「ドイツ空軍機の訪日と日独共同訓練」の中止を求める申入れ！ ー百里基地へー

～ フェンス設置から「分断」政策が見える ～

百里基地反対連絡協議会（略称：百里連協）は、9月20日（火）付「ドイツ空軍総監及びドイツ空軍機の訪日について」（航空自衛隊報道発表資料）及び「独空軍との共同訓練及び百里基地における部隊間交流について」（茨城県議会議員配布）等入手し、緊急に対応を協議しました。訓練は、オーストラリアでの多国間の共同演習に参加していたドイツ空軍「ユーロファイター」戦闘機3機等と航空自衛隊からは百里基地所属のF2戦闘機3機が参加し、経路上の空域（28日、富士山周辺）で編隊飛行訓練を実施、その後百里基地に飛来し部隊間交流をする、という内容です。

百里連協の代表団は、9月26日（月）午後2時、百里基地担当者に対し「百里基地へのドイツ空軍機の訪日と日独共同訓練の中止を求める申入れ書」を読み上げ、抗議の声をつたえました。そして、浜田靖一防衛大臣及び石村尚久百里基地司令に届けるよう手渡しました。

申入れの主な内容は「今回のドイツ空軍の戦闘機による初来日は、日独防衛協力の深化を象徴するものだ。…対中国を念頭とする両国の軍事一体化は、軍事的な緊張を高め、日本国憲法が禁じてきた自衛隊の海外派遣につながるものであり、これを許すことはできません」「百里基地への戦闘機や訓練機が飛来し、部隊間交流が行われるなど、百里基地での共同訓練の既成事実が積み重ねられ、

基地機能が強化されていくことには絶対反対です」等と説明し、記「百里基地で、ドイツ空軍機との日独合同訓練を中止すること」を求めました。

参加者は、茨城平和擁護県民会議から相楽衛事務局長など3人、日本共産党茨城県委員会から上野高志県委員長、県平和委員会の篠原の5人でした。

百里基地正門からかなり離れた、百里基地所有地の境界にフェンスが設置されています。工事作業は、今年5月ごろ行ったといいます。インターホンも取り付けられ、「入門手続き以外で百里基地にご用の方は、中のインターホンよりお話しください」との貼り紙。業者以外は「入門、お断り」ということです。反戦平和運動を「敵視」した歪んだ「姿」が「形＝フェンス」となって表われました。「分断」政策そのものです。9条の丘には「自衛隊は憲法違反」の大看板が百里基地を睨んでいます。「戦争する国づくり」を拒否し、粘り強く抗議の声を上げ続けましょう。

▼インターホン

